



名ゼリフ

神奈川県・公務員

石渡 隆

「そばがあれば何にもいらねえや。」

とは、祖父の口癖だった。そばが大好きで、ほとんど毎日のように食べていた。

僕が小さい頃、お昼ご飯を食べに色々なところに連れていってもらった。デパートや近所の定食屋さん。

「おじいちゃんは、ざるそばだ。お前は何でも好きなものを頼みなさい。」

そう言っって、いつもざるそばを食べていた。僕はまだオマケ欲しさのお子様ランチだったが、ツツツツとおいしそうにそばをすする祖父に憧れていた。

そんな僕のそばデビューは、市役所の食堂だ。まちの活気が溢れてにぎわっていた。祖父はいつものようにざるそばを頼んだが、ここで僕もついにざるそばを頼んだ。

「おお、ついにお前もそばにしたな。」

と、祖父は喜んで僕の頭をポンとたたいた。初めてのざるそばはツルツルしていて、あまりのおいしさに僕はおかわりをした。

「な、おいしいだろ。」

と言っってにっこりした祖父の顔は30年以上たった今でも忘れられない。今頃は天国で大好きなそばをお腹いっぱい食べているだろう。

先日、実家に帰った時、父が、

「そばがあれば何にもいらねえや。」

といいながら、夕飯のそばを食べているのを見て、僕は思わず吹き出してしまった。母が

「すっかりおじいちゃんにそっくりになっちゃって。」

と笑っていた。

そばは長いだけあって、そば好きは長く長く遺伝するのだろう。きっと、今妻のお腹の中にもいる子も、生まれてきていつかこう言うだろう。

奨励賞

「おそばがあれば何にもいらな

って。